

[Azure Core]

Azure Local 展開方法解説

※ 本資料は物理機器をベースに記載しています

日本マイクロソフト株式会社

ご注意ください

本資料で取り扱うクラウドサービスは常に進化します。また、本資料には開発中(プレビュー中)のものも含まれており、市場の変化、製品やサービスの進化の過程で変更が加わる可能性があります。

ご理解のほど、どうぞよろしくお願いします。



検証したい・・・ Azure Local のドキュメントサイトへ!



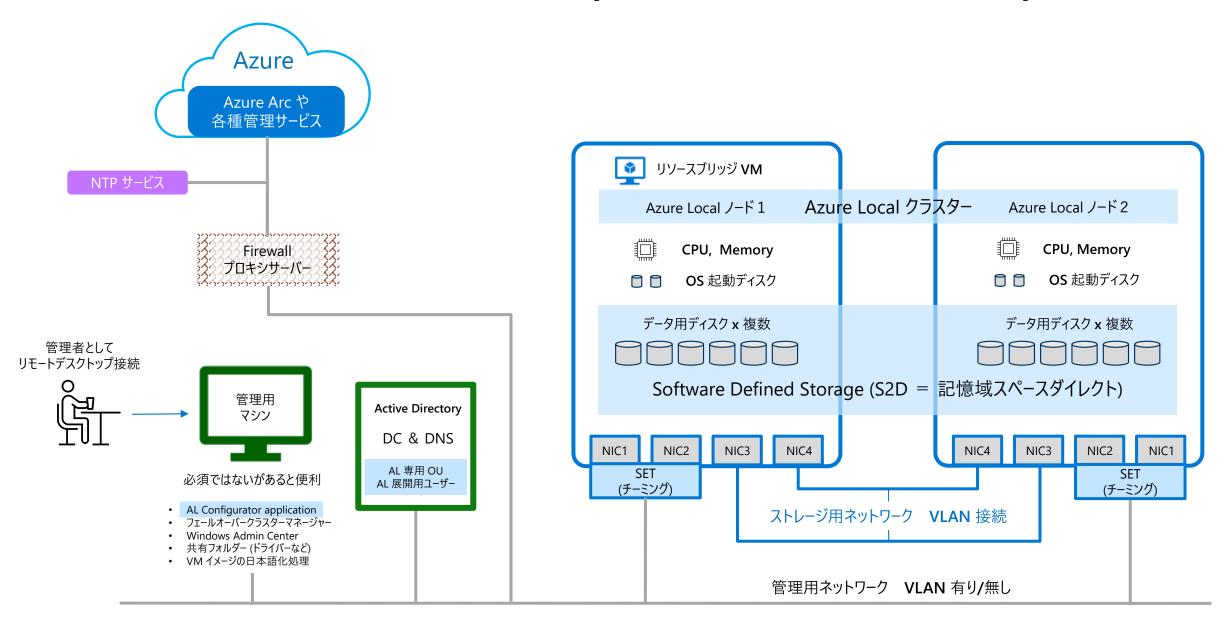
Azure Local jumpstart = Azure VM 上に展開! (自動展開凄い! ただ Azure VM だとコストが・・・)

仮想展開 = 物理サーバーが1台あれば現実的!?

"評価"ではなく、本番環境用の情報で物理ベースの検証環境を作りましょう!



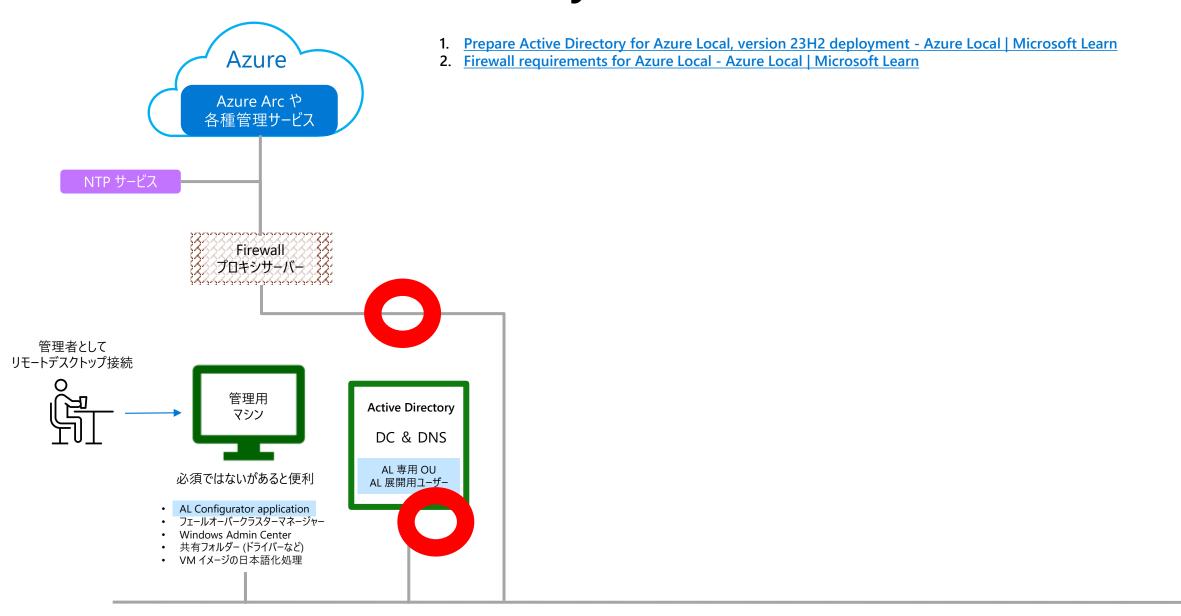
基本的な Azure Local 環境 (便宜上 2 ノードで解説)



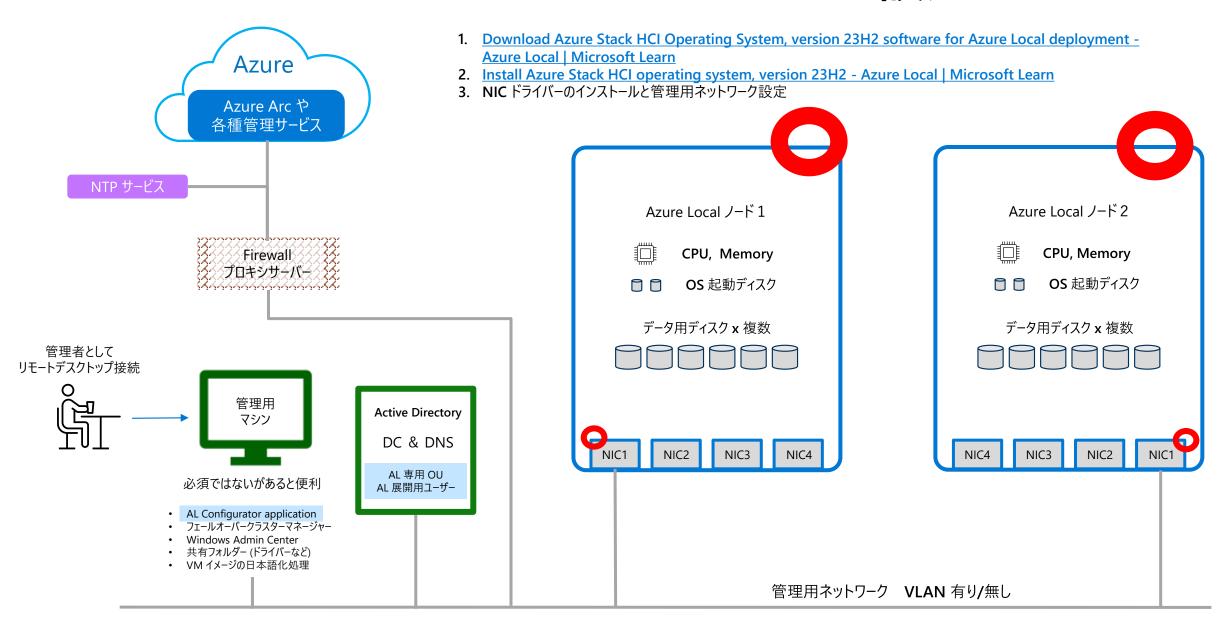
大まかな流れ

- 1. 構築する環境の理解と準備作業
- 2. ハードウェアへの Azure Local OS インストールと設定
- 3. NIC ドライバーのインストール (Azure Local は Inbox ドライバー=OS標準ドライバーでは X)
- 4. Configurator アプリを使った Azure Local ノードの Arc への接続
- 5. Azure Portal からの Azure Local クラスターデプロイ
 - 1. 各ノードへの拡張機能のインストール
 - 2. 設定
 - 3. デプロイのための検証
 - 4. 自動デプロイ開始
- 6. Azure Local 構築後の作業
 - 1. 監視設定、イメージ管理やネットワーク設定
 - 2. Azure Arc VM 作成
 - 1. 仮想マシン内の Azure からの管理、監視

ステップ1:Active Directory の準備と通信要件の確認



ステップ2: Azure Local OS のインストールと設定



ステップ 3 の準備: Azure 情報を 4 つ入手

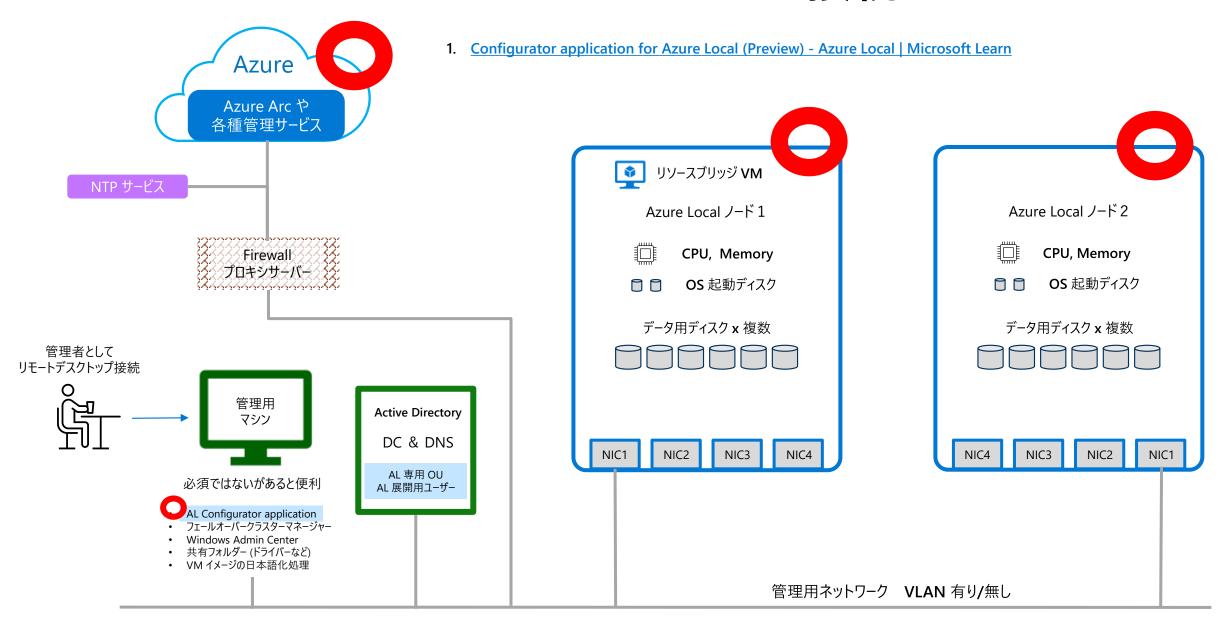
- 1. Azure Local 展開用の権限設定がされているリソースグループの管理画面にて
 - 1. リソースグループ名
 - 2. サブスクリプション ID
 - 3. リージョン名 (場所)



- 2. Microsoft Entra ID の管理画面にて
 - 1. テナント **ID**

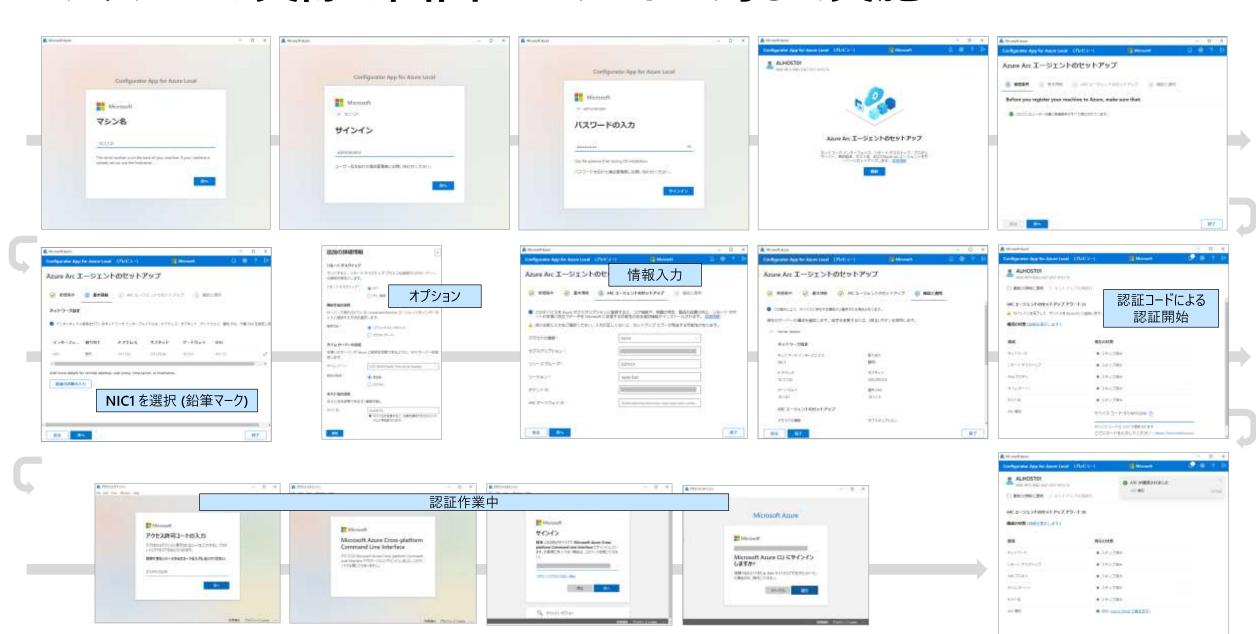


ステップ 3 : Azure Local OS の Arc への接続

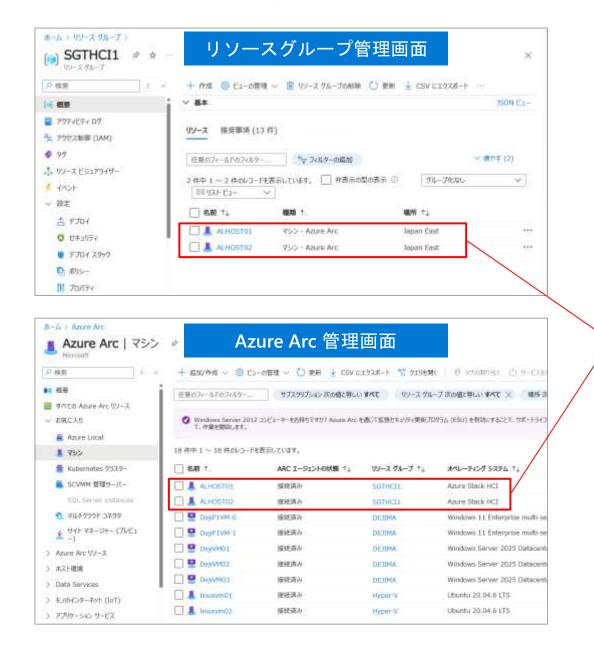


ステップ3の実際の画面:全ノードに対して実施

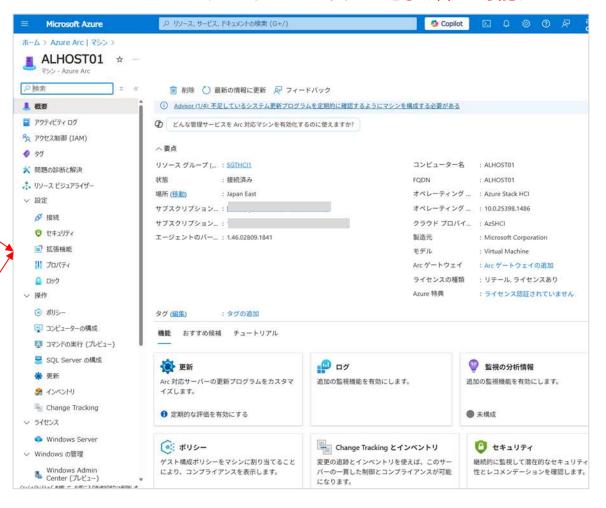
Configurator application をダウンロードし、利用



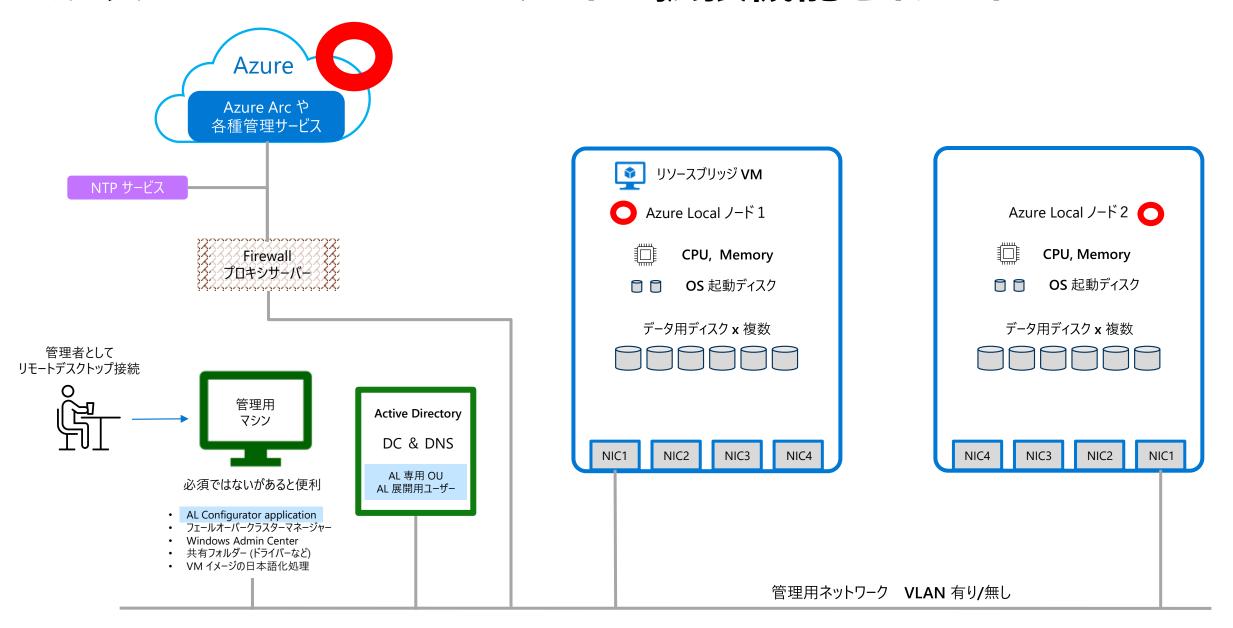
Azure Arc 登録後:Azure から見た Azure Local



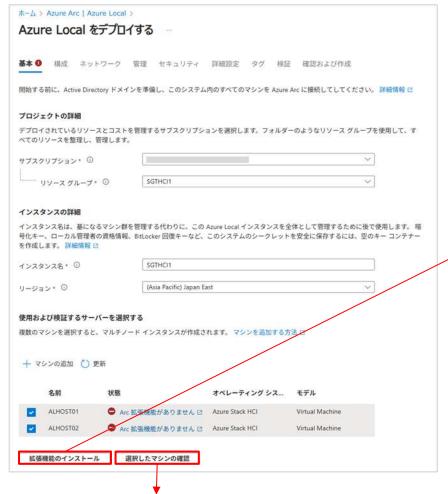
※ Azure Local マシンがAzure リソースとして管理可能に



ステップ4: Azure Local ノードに拡張機能をインストール



クラスターデプロイ中の拡張機能のインストール



拡張機能のインストール後、「選択したマシンの確認」をクリックし、以下の

状態へと持っていく

| The state of the s | ヨベレーティングシス | EFA |
|--|-------------------|-----------------|
| O 非指示了 | Autor Stock (AC) | Witted Machine |
| O BEST | Asura Stock HC1 | Virtual Machine |
| | 0 #887 0 #887 | |

※ Azure からの指示で Azure Local マシンに拡張機能をインストール



- Azure Local が必要とするのは上から4つ
 - これらが "成功" していることを確認後、次のステップに行く
- MDE.Windows は、サブスクリプションに Microsoft Defender for Cloud (Endpoint) が有効になっているとインストールされる
 - Azure Local の動きとは関係なし

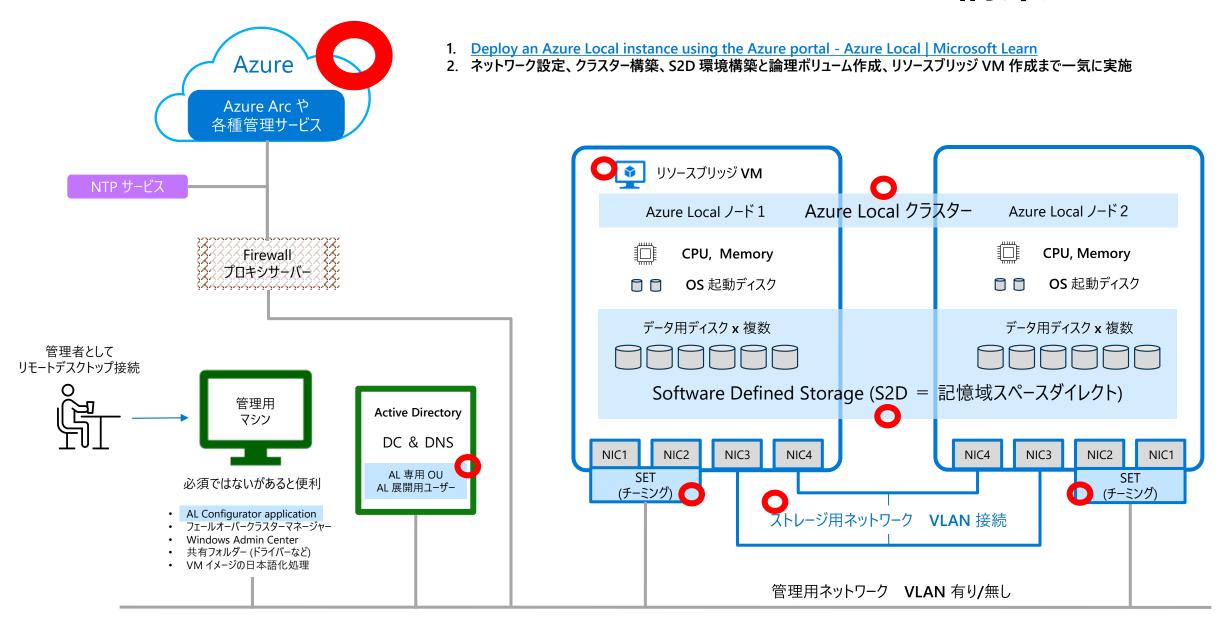
拡張機能のインストール完了後







ステップ 5 : Azure からの Azure Local クラスター構築



Azure Local の物理ネットワークインターフェイスについて

Azure Local が必要とする通信は3種類

ここが高速さを要求 (RDMA 対応 NIC)

HCI管理用 (Management) VM通信用 (VM)

ストレージ処理用 (Storage)

RDMA NIC のスピード

10Gbps 25Gbps 40Gbps

50Gbps

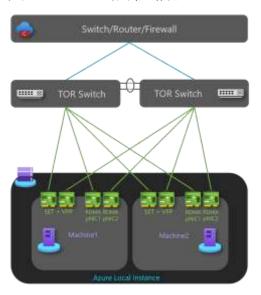
100Gbps

200Gbps

※ 上記 NIC に対応したスイッチが高額になるケースあり

Azure Local deployment network reference patterns - Azure Local | Microsoft Learn

本PPTは NIC 4 ポートで 高速スイッチ接続構成を想定



ネットワーク ATC という機能で NIC をインテント設定 (意味付け)

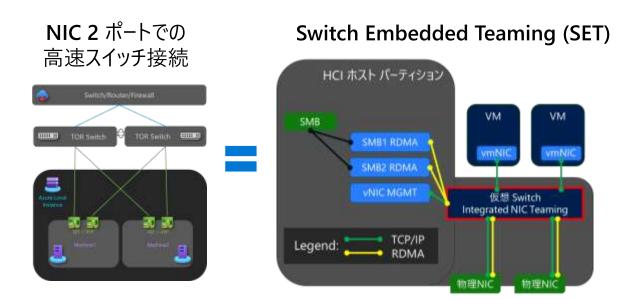
- インテント:Compute-Management
 - インストール時 Port1 → MGMT-VM1 (管理と仮想マシン通信用NIC1)
 - インストール時 Port2 → MGMT-VM2 (管理と仮想マシン通信用NIC2)
- **RDMA** Disabled VLAN 0

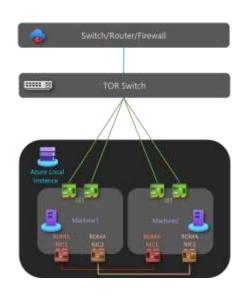
- インテント: Storage
 - インストール時 Port3 → Storage1 (ストレージネットワーク用NIC1) \ \ RDMA Enabled (RoCEv2)
 - インストール時 Port4 \rightarrow Storage2 (ストレージネットワーク用NIC2) \downarrow

それぞれ VLAN 147, 148

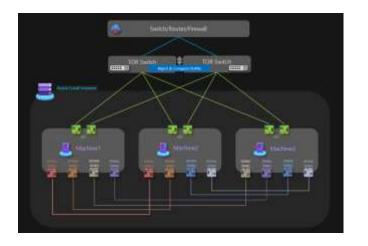
ネットワークの物理構成いろいろ

Azure Local deployment network reference patterns - Azure Local | Microsoft Learn



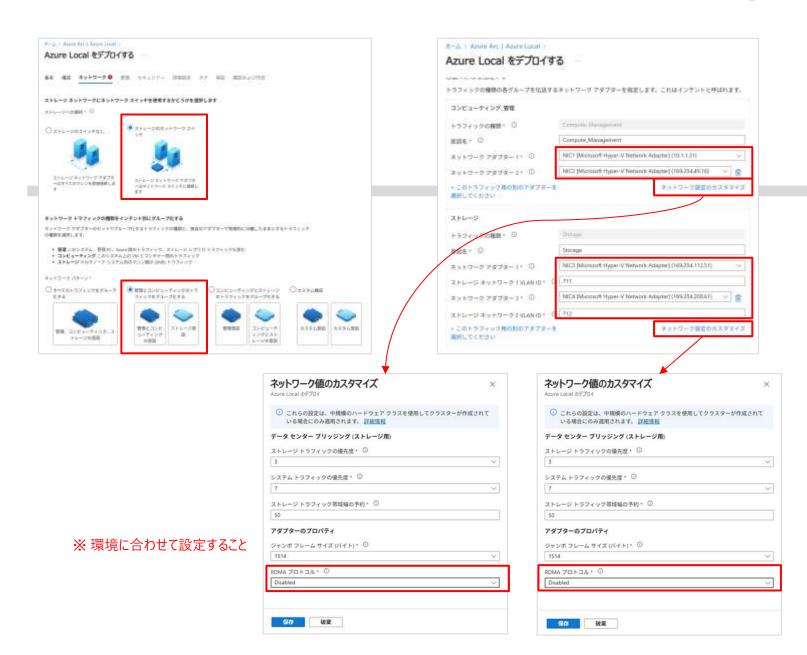


NIC 4 ポートで 低速スイッチ接続 + ストレージネットワークはスイッチレス



NIC 6 ポートポートで 低速スイッチ接続 + ストレージネットワークはスイッチレス

ネットワークの構成:展開のカギを握る設定





※ 連続する6つの IP アドレスが必要

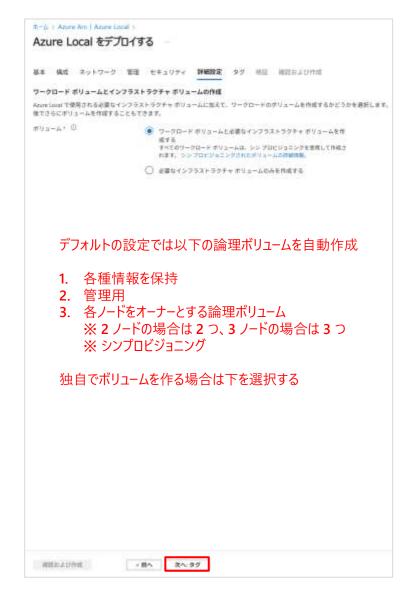
各種追加設定1

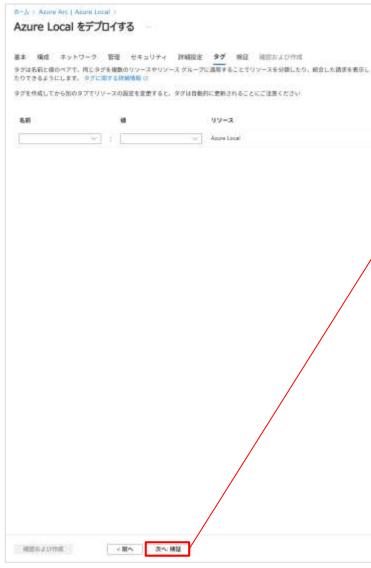
※ Cloud witness 用のストレージアカウント





各種追加設定 2



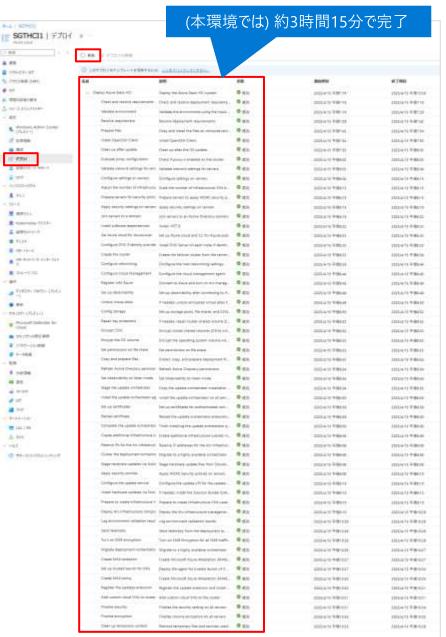




デプロイ用のリソース作成と最終確認処理、そしてデプロイ





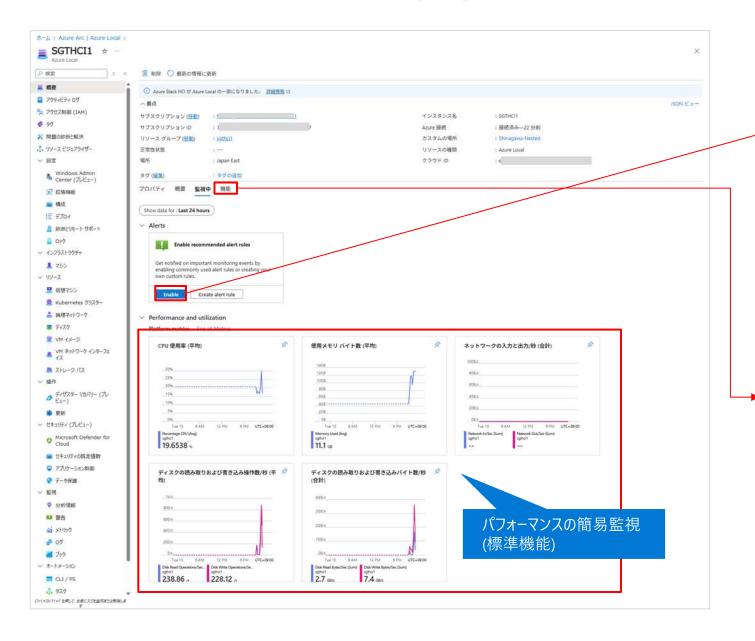


Microsoft

環境構築後の作業と VM 作成



Azure Local クラスター稼働開始





- Azure Monitor による監視
- Windows Admin Center in Azure 追加
- ディザスターリカバリー 設定
- WAC と DR は現在、Azure Local の アプリケーション制御ポリシー WDAC の変更が必要

Azure Monitor 監視設定





必要に応じて Log Analytics ワークスペースの作成 やデータ収集ルールの作成を行うこともできる

| Azure Local 分析情報の構成に戻る | | |
|---|--|-------------|
| データ収集ルール | | |
| データ収集ルール (DCR) は、Azure Mon | tor に入るデータを定義し、データの送信先または保存場所を指定します。 詳細を | 表示 口 |
| サブスクリプション* | | |
| リソース グループ・ | SGTHCI1 | |
| | 新規作成 | |
| リージョン* | Japan East | |
| ルール名。 | SGTHCI-DCR | |
| | AzureStackHCI がルール名の先頭に追加されます。 | |
| データ収集エンドポイント | に役立つ特定のグラフを作成するために、データ ソースが自動的に追加されます。 ビスにアクセスして、 Azure Monitor エージェントの間連するデータ収集ルールを | フェッチするために使用 |
| データ収集エンドポイント データ収集エンドポイントは、根成サー れます。このエンドポイントは、DCR と | ビスにアクセスして、 Azure Monitor エージェントの関連するデータ収集ルールを 同じリージョンに作成されます。 詳細を表示 ロ | フェッチするために使用 |
| データ収集エンドポイント データ収集エンドポイントは、構成サー れます。このエンドポイントは、DCR と | ビスにアクセスして、 Azure Monitor エージェントの関連するデータ収集ルールを | フェッチするために使用 |
| データ収集エンドポイント データ収集エンドポイントは、構成サー れます。このエンドポイントは、DCRと エンドポイント名 ターゲット データの配信先となるターゲットを選択 | ビスにアクセスして、 Azure Monitor エージェントの関連するデータ収集ルールを 同じリージョンに作成されます。 詳細を表示 ロ (new)SGTHCI-EP | 2 |
| データ収集エンドポイント データ収集エンドポイントは、構成サー れます。このエンドポイントは、DCRと エンドポイント名 ターゲット データの配信先となるターゲットを選択 | ビスにアクセスして、 Azure Monitor エージェントの関連するデータ収集ルールを 同じリージョンに作成されます。 詳細を表示 ロ (new)SGTHCI-EP 新規作成 | 2 |
| データ収集エンドポイント データ収集エンドポイントは、構成サー れます。このエンドポイントは、DCRと エンドポイント名 ターゲット データの配信先となるターゲットを選択 | ビスにアクセスして、 Azure Monitor エージェントの関連するデータ収集ルールを 同じリージョンに作成されます。 詳細を表示 ロ (new)SGTHCI-EP 新規作成 | 3 |
| データ収集エンドポイント データ収集エンドポイントは、構成サー れます。このエンドポイントは、DCR と エンドポイント名 ターゲット データの配信先となるターゲットを選択 サブスクリプション・ リソース グループ・ | ビスにアクセスして、Azure Monitor エージェントの関連するデータ収集ルールを 同じリージョンに作成されます。詳細を表示 ロ (new)SGTHCI-EP 新規作成 してください。ターゲットでの通常の使用料金が発生します。 価格設定の詳細。 E SGTHCI1 | 3 |
| データ収集エンドポイント データ収集エンドポイントは、構成サー れます。このエンドポイントは、DCR と エンドポイント名 ターゲット データの配信先となるターゲットを選択 サブスクリプション・ リソース グループ・ Log Analytics ワークスペース。 | ビスにアクセスして、Azure Monitor エージェントの関連するデータ収集ルールを 同じリージョンに作成されます。詳細を表示 ロ (new)SGTHCI-EP 新規作成 してください。ターゲットでの通常の使用料金が発生します。 価格設定の詳細。 E SGTHCI1 | 2 |

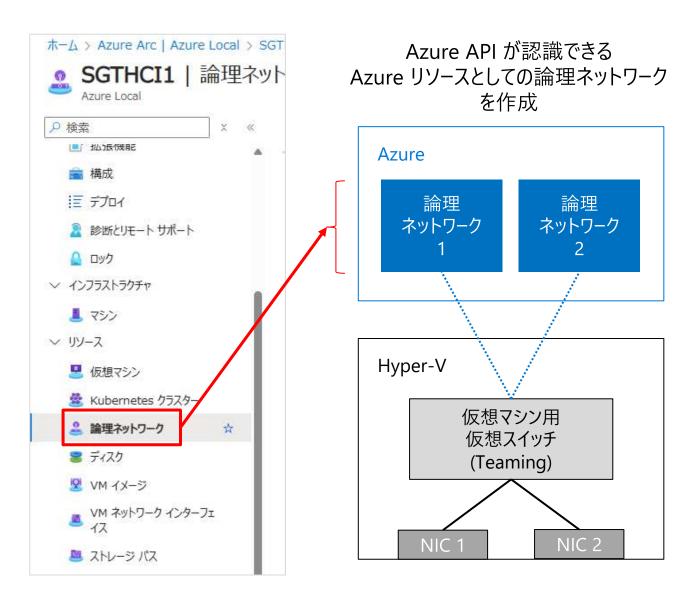
Azure Monitor による監視



概要 正常性 ノード 仮想マシン ストレージ このクラスターには正常性の障害はありません。

正常性確認=障害検知も

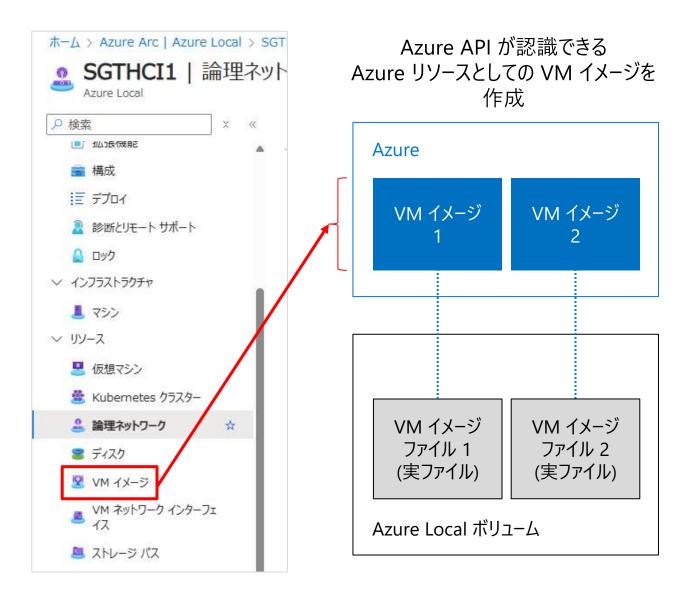
仮想マシン管理のためのネットワーク事前準備



- ※ 仮想マシン起動時に IP アドレスを自動付与
- DHCP
- 静的
 - 静的 IP プールからの自動割り当て
 - 静的 IP プール内 IP の手動割り当て



仮想マシン管理のための VM イメージの事前準備



※ Azure Marketplace 連携あり (英語OSのみ)



Azure からの仮想マシン作成



- 1. サブスクリプション、リソースグループ指定
- 2. 仮想マシン名設定
- 3. 標準 or トラステッド起動選択
- 4. イメージの選択
- 5. CPU とメモリ設定
 - 1. 管理者が自由に設定
 - 2. オーバーコミットも可能
- 6. ゲスト管理の有効化設定 (既定でオン)
 - 1. 有効化 = AD ドメイン自動参加も可能に
- 7. ローカル管理者アカウント設定
- 8. Cドライブ以外のディスクの追加
- 9. ネットワーク インターフェイスの追加
- 10. タグ付け

※仮想マシン作成時に設定済みの論理ネットワークを選択 (論理ネットワークは vSwitch に接続されている)



静的IPアドレスを選択しても、設定済みプールからの自動払い出しが可能、AD DC などは手動設定も可能



※ 仮想マシン名設定、IPアドレス設定、ローカル管理者の追加、 ドメイン参加、Azure Arc へのオンボードを自動化

オンプレミス基盤と Azure による Infrastructure as code の実現

仮想マシン作成ウィザードから 仮想マシン作成用のコードを表示



コードをダウンロードしたり、GitHub 上に移行して管理・編集を行うことで仮想マシン作成をコード化可能

| 並 がかっード ① コンテンツのコピー ① デブロイ 戻 フィードバック | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| ■ パラメーターを含める ② テンプレート パラメーター | | | | | |
| *** ** ** ** ** ** ** ** ** * | 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 | "type": "string" }, "adminPassword": { "type": "sacurestring" }, "securityType": { "type": "string" } // "resources": [{ "type": "Microsoft.HybridCompute/machines", "apiVersion": "2023-06-20-praview", "name": "sgtve01", "kind": "HCI", "location": "japaneast", "identity": { "type": "SystemAssigned" } // // // // // // // // // | | | |

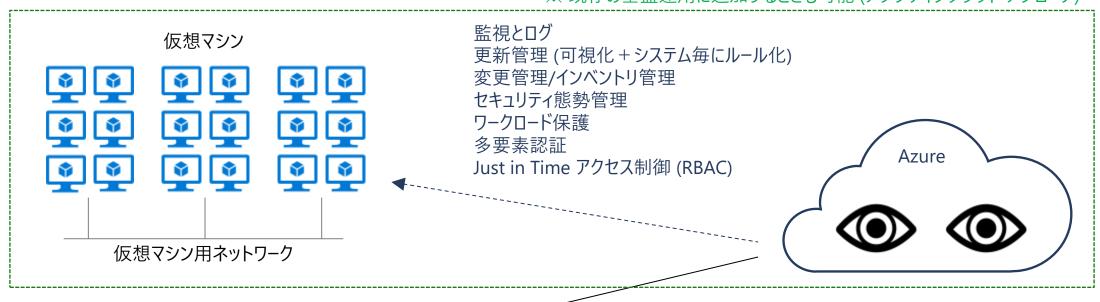
展開用コード(テンプレート) のバージョン 管理も可能

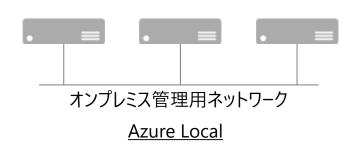
| 名前* | Create-sgt-vm | |
|--|--|----------------|
| サブスクリプション・ | 3 | |
| リソース グループ* | SGTHCI1 | |
| | 新規作成 | |
| 場所。 | Japan East | |
| | | |
| 最初のバージョン | | |
| | sンに関する基本情報。次の手様で指定するテンプレートは、このテンプレート スペックの機切のバー3 | 29ンのために使用されます。 |
| 最初のパージョン テンプレート スペックの機初のパージョ パージョン・ | 3人に関する基本情報。次の手順で指定するテンプレートは、このテンプレート 2パックの最初のバー5 | ジンのために使用されます。 |

※ Azure 上の GUI による情報入力は コード生成のため

仮想化基盤と仮想マシンを一元管理、監視へ

※ 既存の基盤運用に追加することも可能 (アダプティブクラウド アプローチ)





HCI 監視、更新管理、セキュリティ態勢管理 仮想マシン作成、起動、停止、削除 仮想マシンの災害対策 Azure Kubernetes Service の展開と管理、監視

多要素認証 Just in Time アクセス制御 (RBAC) 通常の仮想化基盤の管理

